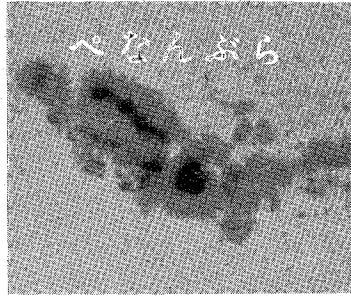


☆流星隕石流星塵研究会 日本流星委員会、川崎天文同好会、日本天文研究会等の主催で、東日本の流星観測者が集って研究や観測上の連絡協議をする目的で、5月31日に川崎市東生田農協ビルを会場として、表記のような会合があった。午前中研究発表および協議、午後小横孝二



郎、村山定男、富田弘一郎、森久保茂四氏の講演があり、夕食後親睦座談会および流星観測指導会があった。講演会は公開で、100名以上の聴集が来会、また協議会、親睦会には遠く和歌山、歌訪、仙台等からも多数流星に関心の深い人々が集まり、盛会であった。

雑 報

岡山鏡面蒸着 岡山天体物理観測所では恒例の鏡面蒸着作業を6月4日より10日間にわたって行ない、188cm望遠鏡、91cm望遠鏡の主鏡、副鏡、その他分光器付属の諸鏡面のアルミニウム蒸着を無事に完了した。

従来、蒸着用タンクはロータリー・オイルディフュージョン・チタニウムゲッターの3段階のポンプで真空をひいていたが、今回はゲッターポンプの代りにマイスナーコイルをとりつけ、短時間に高度の真空を得ることができ、仕事の能率をよくした。

マイスナーコイルとは、真空タンク内に円形に銅パイプを通し、これに液体窒素(沸点-195.8°C)を流すもので、低温により真空中のガスを管壁に固着させるものである。この方法により、蒸着用の真空(10⁻⁵~10⁻⁶mmHg)に到達するのに従来12時間かかっていたのが、わずか3時間に短縮された。1回の液体窒素の使用量は20リットルである。

今年は梅雨がおそく、水源地の貯水量がしばしば憂慮されたが、真空びきの時間が短いため、ポンプの冷却用の水の使用量も節約でき、順調に作業が進行できたのはただただ液体窒素のおかげとあってよいであろう。(G)

二つの新彗星 6月上旬に富田(堂平)ゲルバー(コルドバ)、本田(倉敷)三氏によって次の位置に光度6等の新彗星が発見された。拡散状で核があるものである。

1964年6月(U.T.)		α(1964.0)		δ		
日	時分	h	m	°	'	
6	18 0	2	3.0	+9	10	富田
8	9 0	2	10.0	+10	0	Gerber
9	18 15	2	16.8	+12	6	Honda

7月中旬にこの彗星は、光度4等であった。

静岡県舞阪町の池谷 薫氏は7月4日朝(日本時間)次の位置に光度8等の新彗星を発見された。拡散状で核があるとのことである。

1964年(U.T.)		α(1964.0)		δ	
時	分	h	m	°	'
VII	3	18	15	4	15 +16 50

カンコー天体反射望遠鏡

二十糎CG式焦点距離二段切換天体反射望遠鏡

- ★ 天体望遠鏡完成品各種
- ★ 高級自作用部品
- ★ 抛物面鏡、平面鏡、軸外し抛物面鏡
- ★ アルミニウム鍍金
- ★ 電源不要観光望遠鏡(カタログ要30円切手)

関西光学研究所

京都市東山区山科竹鼻 TEL 京都 059 0057

昭和39年7月20日 印刷発行 定価70円(送料6円) 地方売価75円	編集兼発行人 東京都三鷹市東京天文台内 印刷所 東京都港区芝南佐久間町ノ五三 発行所 東京都三鷹市東京天文台内	広瀬 秀雄 笠井出版印刷社 社団法人 日本天文学会 振替口座東京13595
--	---	--